

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No. 79

(2014年7月刊行)

Interdependent Happiness: Cultural Happiness under the East Asian Cultural Mandate

Hidefumi Hitokoto

Research Project: [幸福度からみた開発政策再考に関する調査研究](#)

■付加価値

本稿は、経済的な発展を遂げているタイ王国の幅広い社会人を対象に、東アジア文化の文化的幸福(Uchida & Ogihara, 2012)を実証的に測定し、報告したものとして新規である。これまでの幸福感研究では個人がどれほど幸福であるかに焦点を当てて研究が蓄積されてきたが、本研究で測定した「協調的幸福感(interdependent happiness)は、対人関係の調和、平穏さ、および人並みの感覚を測定しているという点で異なる。この概念の測定尺度(Hitokoto & Uchida, 2014)を用いることで、仏教的伝統に根ざしながらも急速な経済発展を遂げる東アジア文化、すなわちタイ王国では、客観的な社会階層の高さが個人的な幸福感とは異なって協調的幸福感と反比例の関係にあることを明らかにした。これは、経済的な成功と東アジアの文化的幸福感がトレードオフの関係にある可能性について指摘した点が本研究の付加価値である。

■リサーチ・デザイン

本稿では、タイ王国の都市部と地方部それぞれの現地で生活する社会人を対象に、標準化された心理尺度を用いて幸福感の量的な検討を行った。具体的には、2013年1月と3月に、タイ王国在住の選挙権を持つ社会人を対象に、県、地域と選挙区による層化多段無作為抽出を行い、各家庭へ訪問調査を実施した。調査対象者はBangkok市内から11名、Chonburi県から15名、Trang県から17名、Chiang Khan県から17名、およびUttaradit県から20名であった。訪問調査では現地の研究協力者により、現地の言語を用いてインタビューと質問紙調査を行った。本稿は、質問紙のデータを用いて分析を行っている。

■主な結論（政策的含意を含む）

分析の結果、タイ王国の社会人は、日米の先行研究と比べても高い協調的幸福感を示すことが明らかになった。また、協調的幸福感は、調査対象者が高い客観的な社会経済的地位（より多くの収入、長い教育歴、および管理職地位）を持つ場合に低いことが明らかになった。その一方で、協調的幸福感は主観的な社会経済的地位（自分が貧しい／豊かかと考えるか否か）とは関連が無く、社会経済的地位の制度的側面が協調的幸福感と負の関連にあることが示唆された。また、従来の幸福度研究で使用されることの多い個人的な幸福感や人生の満足度を尋ねる項目は、客観的な社会経済的地位とは関連が見られず、主観的な社会経済的地位と弱い正の関連が見られた。すなわち、個人的な幸福感は社会経済的地位とある程度の比例関係にあるものの、協調的幸福感はその限りではない。これらを総括すると、社会経済的な豊かさを追求することのみでは、東アジアの協調的幸福感を豊かにすることには繋がらないことが示唆されよう。心理的、生物的、社会・文化的な豊かさのバランスを取る発展には、本稿が示唆するようなことと文化・社会生態環境の兼ね合いを考慮に入れた包括的な施策が必要である。